



野田知佑

地球の川を漂う

「自分の腕を信頼して毎日何度か危険を冒し、少々シンドクで、孤独で、いつも野の風と光の中で生き、絶えず少年のように胸をときめかせ、海賊のように自由」。川旅の魅力をこう語るカヌーイスト・野田知佑さんに、川について聞いた。

取材・文 / 橋本淳司 取材協力 / 新宿プリンスホテル



川を漂い、旅するという快樂

世界各地の川をカヌーで漕破するカヌーイスト、野田知佑さん。流れに身をゆだねてのんびりと川を下り、ときには潜って魚を追いかけ、夕暮れ近くなれば河原にテントを張ってキャンプする。風のように世界を飛び回る野田さんは、川遊びの達人である。

「学生時代は競技カヌーをやったこともありますが、これがちっとも面白くない。何しろ流れのない湖の上を力の限り漕いで速さを競うだけですから、娯楽性なんてゼロです。ところが20代半ばにドイツに行ったとき、偶然、カヌーで川旅している家族を見たのです。こんな楽しみ方があったのかと驚くと同時に、まさに自分のやりたいことを見つけたという感じで、うれしくなりました」

子供の頃から野田さんの遊び場は川だった。九州の菊池川の近くに育った野田さんは、一年中、川で遊んでいた。

「季節によって遊び方はさまざまです。九州の川は水温が高いから、澄んだ川ならどこでも潜れます。その頃は、まだ水中メガネなんてなかったけど、水は透き通っていて、川底には雲母がキラキラ輝き、カマツカやドコが泳いでいるのが見えました。釣りをしたり、魚をとる罠をしかけたり、楽しみは尽きませんでした」

こうした少年時代の遊びを、すべてカヌーにもちこんだ。

「ひたすら漕いでいるだけじゃ、面白くない。釣り、泳ぎ、潜り、そんなことをしながら川旅するのはすばらしいですよ」

川旅はとて自由な冒険である。私たちは日常、何気なく道路を歩くととき何百という規則に縛られているが、川にはそれが一切ない。

「初めて川旅に連れていくと、みんなとてつもない自由さに驚き、感動します。どこに行ってもいいし、どこにも行かなくてもいい。こんな解放感は日常生活では味わうことができないでしょう。こうしたいと思ったことを、何にも遠

